

2024年7月26日（金）

未分類

2024年7月25日（木）

未分類

2024年7月24日（水）

未分類

2024年7月23日(火)

未分類

2024年7月22日(月)

未分類

2024年7月22日(月)

こんにちは。ナガサキ・ユース代表団12期生です。私たちナガサキ・ユース代表団12期生はジュネーブで開催される「2026年核不拡散条約(NPT)再検討会議に向けた第2回準備委員会」に7月22日から7月26日まで出席します。

そこで、本日よりメンバー6人の持ち回りで第二回委員会参加の記録をブログで発信させていただきます。初日を担当します長崎大学大学院工学研究科2年の廣瀬貴彌子です。

私たちは朝8時に国連のゲート前に集合しました。集合後、本人確認と荷物確認おこない、国連内に入りました。本人確認や荷物検査は保安検査場のような場所で緊張しました。👉

国連に入った後は、私たちがサイドイベントをする部屋の確認などをしてオープニングセッションに参加しました。



↑↓会議場での写真



会議では、核の脅威や核軍縮について話し合われていました。核軍縮や核廃絶は地道な努力が未来へつなげるという意見がおおくありました。また、一番最初に日本も発表の場があり、日本からのメッセージも聴くことが出来ました。我々の活動の小さな一歩も大きな一歩に繋がることを信じています。

午後は、日本被団協とIPPNW(核戦争防止国際医師会議)の方と面会がありました。

日本被団協との面会では、児玉三智子(こだまみちこ)さんに被爆者講話をしていただきました。こんなに詳細な話をお聞きするのは初めてですごく心に響きました。特に「被爆者は死ぬまで被爆者」「どんな国のどんな子供たちでも平和を知らない子供をつくってはいけない」という言葉が印象的でした。

IPPNWは、活動内容やICANとの違い、他の機関との連携などのお話をしていただきました。私たちの些細な質問にも丁寧に答えてくださり、医学的な面以外でのお話も多くしていただきました。とても気さくな方で楽しい時間でした。



↑左)広島市長 中央)児玉三智子さん 右)長崎市長



↑モリーさん(IPPNW)との面会風景

一日目最後に、市川大使公邸で行われたレセプションに参加しました。高校生平和大使やジュネーブ大学の学生、市長などが出席された会で様々な方とフランクにお話することが出来ました。また、おいしいご飯を食べることができて本当にうれしかったです！！



↑市川大使と撮影

一日目の記録はこれで終わります。最後まで目を通していただきありがとうございました。これからも引き続きメンバーがブログを更新しますので、お待ちください🌟

廣瀬貴彌子(ひろせきみこ)

2024年7月23日(火)

本日のブログを担当します、長崎大学大学院2年の河邊桜と長崎大学工学部2年の福浦知葉です。

前半は河邊が紹介します！本日も朝8時に集合し、多くの方とお会いしてきました。



韓国代表団とユースの皆さんにお会いしてきました。同じユースとして活動する海外の方と初めて交流し、私たちと同じように活動している人が世界中にいることが実感できました。私たちナガサキユース代表団のメンバーの専門は様々です。私たちのように様々な専門分野のメンバーが集まっていることは珍しいようで、とても興味を持っていただきました。近い国同士私たちが、連携して活動していけたらいいなと思いました。



私たちはサイドイベントでTシャツに寄せ書きをします。「あなたにとって平和とは何か」の思いを集めた「平和への思いを込めたTシャツ」を作成します。せっかくなので、韓国ユースの皆さんにも平和への思いを書いてもらいました。

UNIDIRの Geissさん(Director of UNIDIR)にお会いしました。GeissさんはUNIDIRについてや私たちからの質問にとっても丁寧に答えてくださいました。Geissさんは若い世代が議論に参加していくことが必要不可欠だとおっしゃっていました。私たちの活動が、若い世代が一步を踏み出すきっかけになるように発信していくことが大切だと感じました。また、GeissさんにもTシャツに平和への思いを書いてもらいました。



ICANの事務局長であるMelissaさんにもお会いしました。お会いしたのは1月ぶりでしたので、今までの私たちの活動について紹介しました。また、Melissaさんからは「前向きな姿勢でいることが大切だ」という力強いお言葉をいただきました。「前向きでいることを諦めないこと、ただ前向きになるのではなく楽しむこと」は忘れてはいけない大切なフレーズだと感じました。



ここからはナガサキ・ユース代表団12期福浦がお届けします！

午後からは、NGOセッションに参加しました。まず初めに、日本被団協の児玉三智子さんがスピーチをされていました。当時の被爆体験を非常に詳しくお話されていて、当時の人々が逃げ惑う様子などが目に浮かんできました。特に、「もう被爆者を作らないでください。核兵器に頼らない世界の実現を望みます」と力強く訴えていたのが印象的でした。

その後、広島市長や長崎市長、各国のNGOが主張をしていきました。特に、長崎市長のスピーチの中の、「長崎を最後の被爆地に」という言葉が非常に心に響きました。この言葉は昨年のウィーンで開催されたNPT再検討会議でも述べられていました。この主張が世界の人に伝わってほしいなと心からそう思いました。

スピーチを聞いていると、多くのNGO団体が、広島・長崎に触れていました。私は、このセッションに参加して、二度と残虐で非人道的行為が行われないように、絶えず訴え続けていくことが大切だと感じました。



↑日本被団協・児玉三智子さんによるスピーチ



↑長崎市長によるスピーチ

16時から平和首長会議主催のユースフォーラムに参加しました。ユースフォーラムでは、広島の高校生、ナガサキ・ユース代表団、ICAN、ユース非核リーダー基金、ジュネーブ大学の学生など、多くの若者が核兵器のない世界に向けて、平和への思いを発表し、意見交換を行いました。

ナガサキ・ユース代表団からは、河邊・福浦が発表を行いました。発表している間、多くの参加者の皆さんが私たち若者の平和への思いに、非常に真剣に耳を傾

けてくださいました。このユースフォーラムを通して、少しでも若者の声が届いてほしいなと感じました。意見交換では、皆さん共通して一歩踏み出してみることの大切さを強調していました。

自分の心の中で思っているだけだと、誰にも何も伝わりません。発信して初めて、その思いは伝わるのです。だからこそ、たとえ小さなことでも、周りに伝えていくことが私たちができる第一歩なのではないかとディスカッションを通して感じました。

ユースフォーラムの最後には国連事務次長の中満泉さんに私たち若者に対して、エールを送ってくださいました。「これから先の未来は、あなたたち若者の生きる世界だから、もっと声を上げていくべきだ」というお言葉や、「ユースフォーラムのようなめったにないチャンスをものにして、ネットワークを作り、交流し続けることが大切である」と何度も繰り返しメッセージを伝えていただきました。



今日一日の面会やディスカッションを通して、交流や対話を通して、得られることは非常に多くあると実感しました。明日のサイドイベントでも、対話を大切に頑張りたいと思います！

2024年7月24日（水）

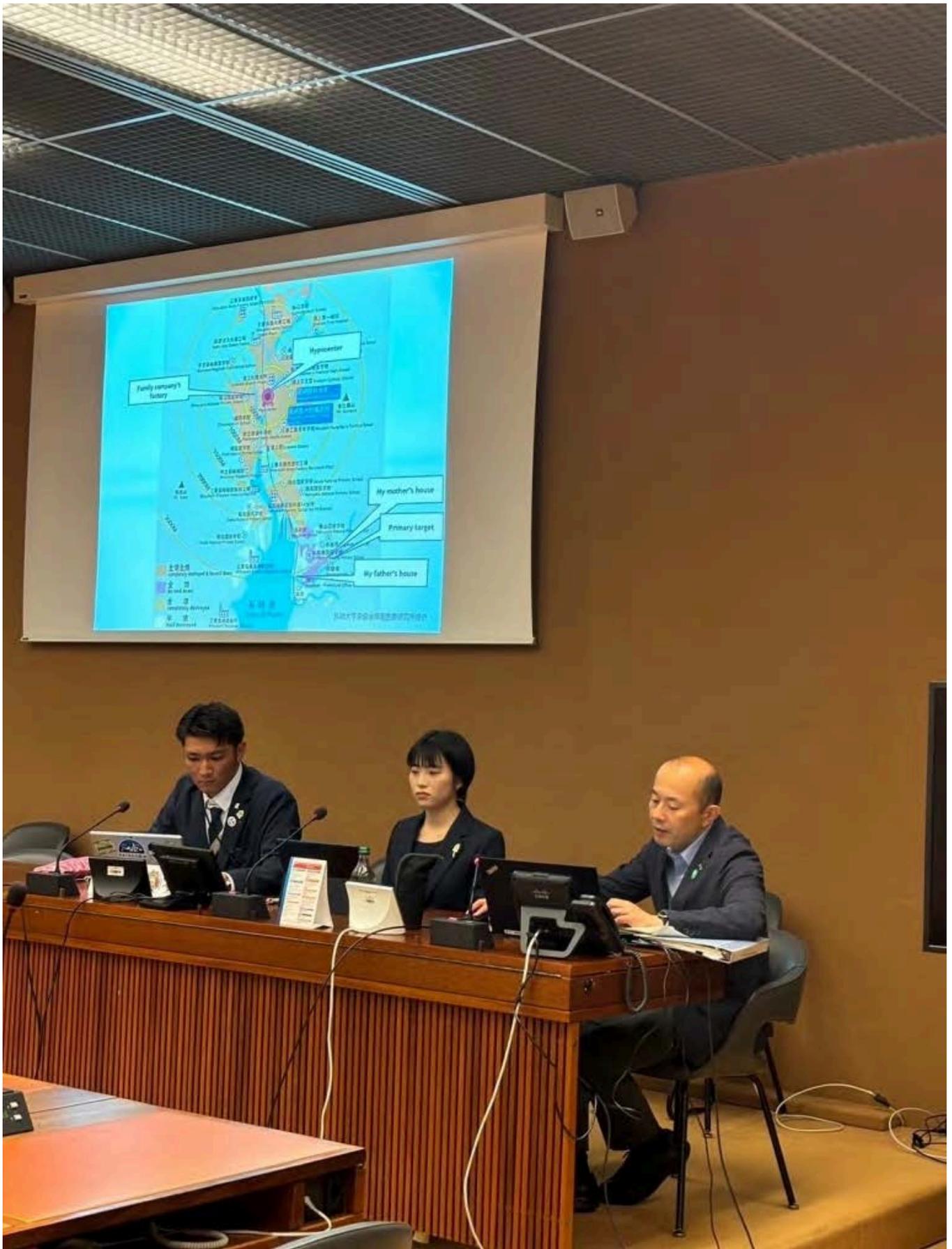
本日のブログを担当します、長崎大学大学院教育学研究科2年の平林 千奈満（ひらばやし ちなみ）です。3日目である本日は、待ちに待った私たちのサイドイベントの日でした！サイドイベントの様様をたっぷりと皆さんにお伝えします。

12期生は“Bring Your Piece of Peace for Dialogue-With Nagasaki Atomic Bomb Exhibition @UNOG-”というイベントを開催しました。私たちは活動を通して、国や立場は異なっても、平和を願う思いは共通していると気づくことができました。私たちはそうした一人一人の多様な平和の「かけら」（piece）がたくさん集まり、集めた「かけら」を組み合わせることで、誰もが願う平和が完成すると考えています。今回は、対話に焦点を当てたサイドイベントを実施し、皆さんの平和のかけらを交流することで、皆さんと一緒に平和について考えていきたいと考え、このサイドイベントを企画しました。

本日は朝から準備で大忙しでした。SNSで告知したり説明を書いたりと直前までメンバーで協力して準備を行いました。ここで、一つ大きなミスが！なんと、サイドイベントのチラシの曜日が間違っていたのです🙄急遽、チラシを書き換えて対応しました。教えてくださった方、本当にありがとうございました！

そんなこんなであったという間にサイドイベントの時間になりました。今回は平和推進協会様と日本非核宣言自治体協議会様よりお借りした資料と自作ポスターを展示しました。みんなで手分けしてポスターを貼っていきます。時間ギリギリまで準備と告知を行いました。

いよいよ、サイドイベントのスタートです！開会の挨拶の後、ゲストスピーカーの、鈴木史朗長崎市長、メリッサ・パークICAN事務局長、馬場裕子長崎県副知事のお三方から、それぞれメッセージをいただきました。鈴木市長には、「被爆地の市長、また被爆二世の立場から世界に訴える平和への願い」をテーマにお話しいただきました。長崎が「最後の被爆地」として歴史に刻まれ続けるために、一人一人が自分にできる平和活動を行うことが大切だと学ぶことができました。メリッサさんには、「長崎を訪問後に考える核兵器廃絶への思い」をテーマにお話しいただきました。子どもや教育の視点から核兵器廃絶や世界恒久平和を考えることができました。私自身も世界的に見ても珍しい長崎の平和教育を推進することができる教員になりたいと強く思いました。馬場副知事には、「次期SDGsへの思い」をテーマにお話しいただきました。環境問題や人権問題などすべての問題は関連しており、人間の安全保障の観点から動きを進めていくことが大切だと学ぶことができました。お忙しいところ、スピーチをしていただき、ありがとうございました！



Message from the ICAN Director





ゲストスピーカーによるプレゼンテーションの後は、展示の鑑賞とメインである対話に移りました。





お越しいただいた皆さんが真剣な眼差しで展示をご覧になる姿が印象的でした。
対話の中で皆さんにいただいた意見を一部ご紹介します。

- ・キノコ雲は見たことがあったが、被爆の実相を知ることができてよかった。
- ・原爆によって、今もなお被爆者の方が苦しまれていることが分かり、核兵器廃

絶に向けて行動したいと思った。

- ・原爆だけではなく、長崎や平和活動についても学べてよかった。
- ・核兵器について学ぶ環境（教育）が世界的になくてはならないと思う。
- ・プレゼンテーション形式のサイドイベントが多い中で、同世代の若者と平和について語れてよかった。

また、個人的に嬉しかったのは、イザベル・タウンゼントさんとお会いできたことです！私は今年、2月に長崎で行われた核兵器廃絶市民講座の第5回目において、「長崎の郵便配達」の上映会と「被爆者とのこれからの過ごし方」の討論会に登壇させていただきました。私自身、「長崎の郵便配達」からは多くのことを感じ、イザベルと直接お話をしたいと考えていたので、とてもいい機会になりました！イザベルさんとは様々なお話をさせていただき、「私たちが郵便配達をしてるんだ」とお互いに意気投合することができました。



サイドイベントの完成したTシャツがこの通りです！



様々な「平和への思い」を書いていただきました。私が印象的だったのは、「平和への思い」を書かれるときの皆さんの表情です。皆さん笑顔で幸せそうな表情をされていました。一人一人の平和のかけらが集まれば、みんなが幸せな世界になると改めて思いました。

お越しいただいた皆さん、貴重な資料をお貸しいただいた皆さん、本当にありがとうございました！！皆さんの平和のかけら（Piece of Peace）を集めたTシャツを長崎に持ち帰り、平和の輪を広げていきます。

ナガサキ・ユース代表団12期生 平林 千奈満（ひらばやし ちなみ）

2024年7月25日（木）

本日のブログを担当します、長崎大学工学部二年の江川航士朗（えがわ こうしろう）です。4日目である本日は、ドイツ大使と面会、南アフリカ大使と面会、軍縮会議日本政府代表部の市川大使との意見交換会を行いました。

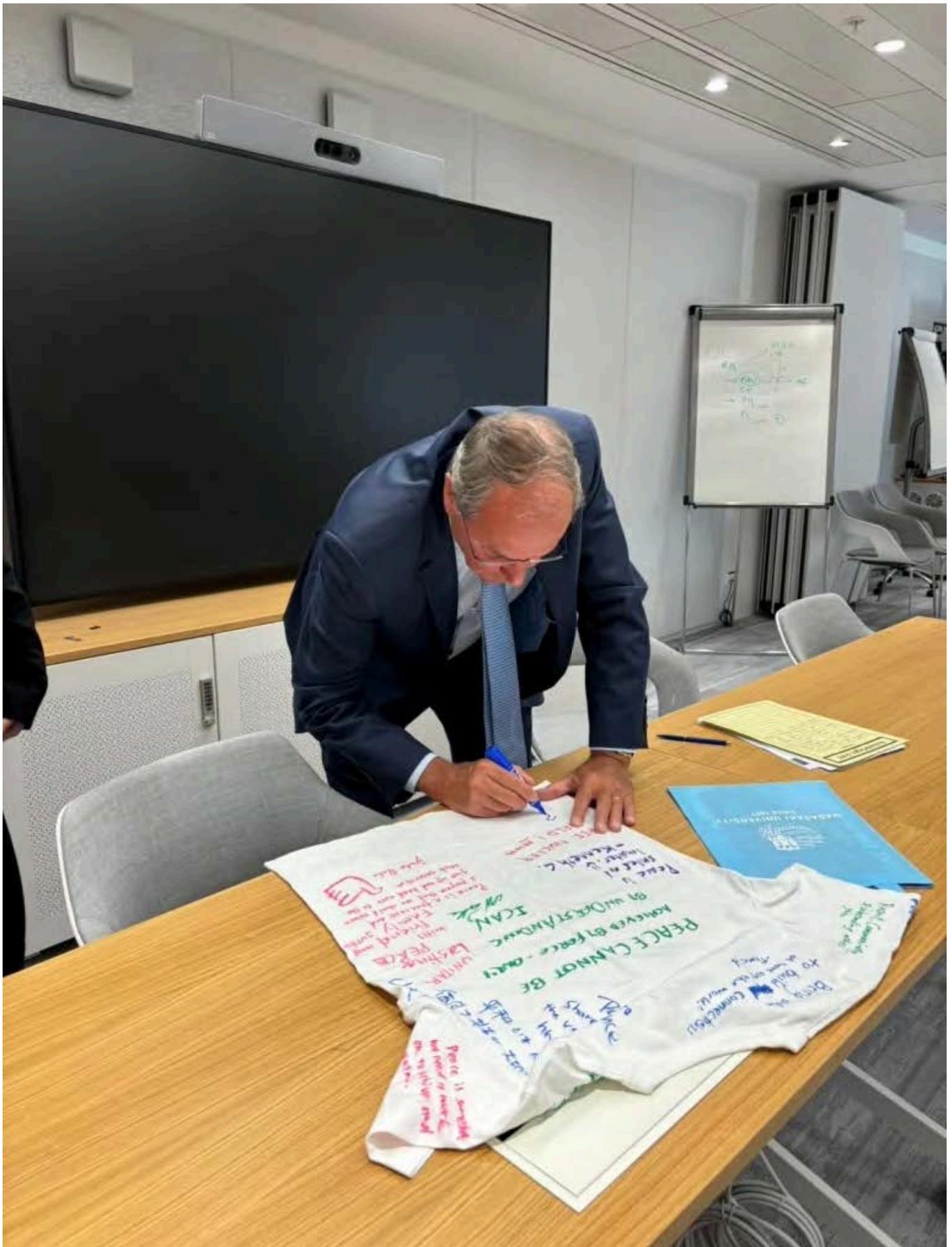
本日は4日目にして初めてジュネーブに派遣されたナガサキ・ユース代表団メンバーが全員揃いました。朝8時集合でしたが全員が余裕を持って集合できました。9時まで予定が何も入っていなかったため全員で記念撮影を行ないました。



9時からドイツ大使と面会させていただきました。ドイツ大使との面談ではAIに対する脅威やNPTの重要性、核兵器が二度と使われないことの重要性などを教えていただきました。またヨーロッパで今起きているウクライナ紛争の中でロシアが核による脅しをしていることに大変な危機感を覚えていることを私たちに教えて頂きました。また核兵器保有国が政治的立場を優位にしていることに危機感を抱いていて、我々非核保有国には核兵器を減らすために現実的で迅速な対応が求められていることが分かりました。また私たちの質問にも真摯に答えていただき、平和のための学問を増やすべきであるという言葉が大使からいただきました。核軍縮は一步一步進めるべきであるという力強いお言葉もいただきました。ドイツは日本と経済的にも歴史的にも似ている部分があり、私はドイツ政府と日本政府に核軍縮をリードして欲しいと思いました。日本も、まずはオブザーバーとして、TPNWに参加することから始めてもらいたいと私は思いました。

面会のあとは私たちがサイドイベントで作ったTシャツに「あなたにとっての平和とは」という問いに対しての答えも書いていただきました。ドイツ大使のように核軍縮に対して自分の信念を持っている素晴らしい方に出会えて私は本当に嬉しかったです。





10時半から南アフリカ大使と面会させていただきました。私たちは南アフリカ大使との面会を非常に楽しみにしていました。核廃絶という分野において南アフリカは核を放棄してNPTに参加した国であり、核廃絶の模範的な国であるからです。大使は予定よりも少し早く来ていただいたため、わたしたちは少しバタバタ

してしまいました。私たちはもともと南アフリカ大使に対して、南アフリカがどうして核兵器の放棄に成功したのか、そしてその際にどのような壁にぶつかったのかを教えてくださいというメールを送っていました。一番初めは私たちの活動について紹介してその後に私たちの質問に答えてもらいました。南アフリカはもともとアパルトヘイト政策があり、民主主義が機能してない国だったそうです。しかしネルソンマンデラの活躍もあり1994年に南アフリカは大きく変わりました。初めて全人種が参加した普通選挙をへてネルソンマンデラ大統領が誕生し、国が民主主義国家に生まれ変わりました。すべての始まりはその時で、そこからは、国民が思うように政治が動いた為、国民が望まない核兵器は、放棄することが出来たそうです。大使がアパルトヘイトの歴史からくわしく解説してくれたため私たちは非常に理解できました。大使に、違った背景を持った人と接するとき大切にしていることは何ですかという質問をしました。「自分の考えを押し付けるのではなく自分の考えを共有してまた相手にも共有してもらいながら、相手をリスペクトすることから始まり、本当にリスペクトすれば相手からもリスペクトが帰ってくる」という答えを頂きました。面会のあとには私たちがサイドイベントで作ったTシャツに「あなたにとっての平和とは」という問いに対しての答えも書いていただきました。私もこの活動に関係なくても多くの人と関わる機会の中で、リスペクトがまだまだ足りていなかったなと感じました。対話をする上で大切なことは相手をリスペクトすること、非常にシンプルでわかりやすい回答ですが、私はまだ100%実現できているとは思えません。今後は関わっていただいた全ての人に感謝とリスペクト忘れず、真摯に生きて行きたいと思いました。

大使より、ぜひ若い人たちには頑張ってもらいたいという言葉をいただき、これからは私は核廃絶、そして平和のために自分ができることを精一杯頑張っていきたいと思いました。





お昼ごはんを食べた後に私たちはバスで軍縮会議日本政府代表部に向いました。軍縮会議日本政府代表部は在ジュネーブ国際機関日本政府代表部と建物を共にして、着いたら私たちはその建物の大きさに驚きました。予定より30分前に到着してしまい外で待っていたのですが、代表部の方が中に入れてくれました。入

り口のところで待っていたら、鈴木長崎市長や松井広島市長が来て、その後平和市長会議の高校生が日本代表部に到着しました。そのまますぐ奥のミーティングルームに通していただき、席について一息つくと、市川大使がいらっしゃいました。市川大使は私たちを笑顔で迎えてくれたため非常にリラックスできました。まずは松井市長が意見交換会の意義を、私を含めその場にいた全ての人に共有してくださいました。その次に鈴木市長より、若い人に対する期待を述べていただきました。そして平和市長会議の高校生の挨拶、そして私たちナガサキ・ユース代表団の簡単な挨拶をさせていただきました。挨拶は私が行ったのですが、その中でサイドイベントの説明をする際に言葉だけでは抽象的であると感じたため、サイドイベントで作ったTシャツを市川大使に見てもらい私たちの活動の簡単な説明をさせていただきました。意見交換会が始まると非常に温かい雰囲気を作ってくださいました。私たち大学生や高校生が聞きたいことを素直に聞くことができました。その中市川大使から平和とは何ですかという質問に対して「戦争がないだけではなく生きていく人が恐怖を感じない世界が平和な世界である」という言葉をいただきました。私はその言葉を受けて「恐怖を感じないというのはどういうことか」という質問をしたくなったので市川大使に聞いてみたら、命の危険を感じず、全ての活動における自由を感じることが、恐怖を感じないということであるという回答を頂きました。また「世界が国単位で動いてしまっている以上、完全な戦力の放棄は難しい」との回答もいただき、現実世界における軍縮の難しさを私たちに丁寧に教えてくださいました。市川大使の隣には、ウィーンの日本政府代表部特命全権大使の海部大使も座っていました。高校生が「自分の言葉で平和を伝えるために必要なことは何ですか」という質問をしたら、海部大使は言葉を選びながら「言葉によって相手の印象を大きく変えてしまうため、多くの言葉を知りまた多くの立場の人間の考え方を知り、自分の表現力の引き出しを増やすことが重要である」と回答されていました。この答えに私は非常に感銘を受けました。この質問の回答はなぜ勉強するのかという質問にも当てはめることができると私は思う。広い視野を持ち、言葉の引き出しを増やし、論理的に自分の考えを相手に伝えることは訓練をしないとできないことであるからです。私はこの言葉を受けてより一層勉学に励もうと思いました。そしてこの言葉を今後ずっと胸に刻んでおこうと思いました。学生からの多くの質問をふたりの大使は丁寧に回答してくれました。その姿勢に私は尊敬の念を抱きました。意見交換会の後に写真撮影の時間があり写真撮影を大使館の階段のところで行いました。写真撮影が終わり少し時間がありそうだったので私たちは大使にTシャツにあなたにとっての平和とは何ですかという問いの答えを書いてもらおうと思いきり切ってお願いしに行きました。事前に市川大使には口頭で同じ質問を

していたため、すぐに承諾していただきました。しかし海部大使は、一度はすぐにペンを握ったのですが少し考えさせてくれと言ってペンを離して、じっと考える様子を見せました。私はそれを見て哲学者のような印象を受けました。2人の大使にもTシャツに「あなたにとっての平和とは何ですか」の答えを書いていただきました。私たちは今市民社会側の人間として平和活動を行っていますが、政府側の人間として平和を目指している大使という職業を知ることができて本当に嬉しかったです。





皆さんに書いていただいた「あなたにとっての平和とはなんですか？」に対する答えが書かれたTシャツは、報告会の時に全て公開したいと思います。

明日で私たちのジュネーブでの活動は終わりますが、もっともっと平和の輪が広がるように日本に帰った後も頑張っていきたいなというふうに思えるそんな一日でした。

長崎ユース代表団12期生 江川 航士朗

(えがわ こうしろう)

2024年7月26日（金）

最終日のブログを担当します、長崎大学多文化社会学部2年の小林万葉（こばやし まよ）です。今日でジュネーブでの私たちの活動は最後になります！ジュネーブに来て1週間が経とうとしていますが、この1週間は人生の中で最も濃密な時間だったように感じます…。拙い文章ではありますが、最後までお付き合いいただければ幸いです✨

昨日のブログでもお気付きの方いらっしゃるかもしれませんが、実は私、ジュネーブ来てすぐ39℃以上の高熱が出てしまいました…。あまりのしんどさに、もう日本に帰りたいよ（泣）と会議参加前から考えてしまっていた事は内緒ですが…メンバーをはじめ先生方が全力でサポートしてくださりなんとか回復いたしました！他のメンバーより活動開始が遅れてしまいましたが、参加できなかった分もこの2日間は全力で取り組みました。

本日は、朝からICANの事務局長メリッサパークさんにICANの事務所に招待していただきました！メリッサさんとは一度長崎でお会いしたことがありますが、今回ジュネーブでも私たちと面会してくださり、またサイドイベントのゲストスピーカーとしてもご登壇していただきました。そして今日は事務所にもご招待していただき…！こんなにも貴重な機会をたくさん作ってくださったメリッサさんには感謝の気持ちでいっぱいです。



次に、私たちはジュネーブ大学の日本語学科の学生と交流しました。まずは小さなグループに分かれて自己紹介をしました。日本語がとっても流暢で、なんでそんな言葉まで知ってるの！と何度も驚かされました。それから私達のグループでは、お互いの国の文化やオススメの食べ物、観光スポットを聞き合ったり、またそれぞれが考える”平和”についても意見交換を行いました。戦争のない世界、全ての人々が希望や夢を持てる世界、笑いが絶えない世界、それぞれが考える”平和のかたち”は少しずつ違っていても、その方向性は共通しているように感じました。世界中の全ての人々が明日も生きていたいと思えるような、夢や希望で溢れた世界が1日でも早く訪れたらと思います。これまで私たちは大使の方々や国際機関の方々と面会する機会が多かったので、今回同世代の方と交流出来たことはとても良い刺激となりました。夏休みなのに関わらず、私たちと交流してくださりありがとうございました！

午後からはICRC（赤十字国際委員会）の方と面会しました。ICRCでは生活の自立支援や食料・水・避難所の提供、戦傷外科やトラウマケアなど、身体だけでなく心のケアも行っていると学びました。特に私は戦争や紛争などにより、離れ離れになってしまった家族の再会支援のお話がとても印象に残っています。人間は社会的な存在であり、他者とのつながりによって自分のアイデンティティを確立しているため、そのつながりが壊れてしまうと自分のアイデンティティやその方向

性を失ってしまうという言葉がとても印象に残りました。私もいざ家族と離れ離れになってしまうような状況になった時には、自分のアイデンティティ、そして生きる希望さえも失ってしまうような気がします。ICRCが行っている家族をつなげる活動は、戦争・紛争地域下で生きる人々に希望と勇気を与える、とても大切な活動だと感じました。





面会の後には、ICRCのミュージアムを見学しました。これまであまり聞いたこと
のなかった、紛争地域での活動や、ICRCの歴史についても知ることが出来まし
た。展示の中に、親と離れ離れになってしまったウガンダの子供達の顔写真が貼
られているものがあつたのですが、あまりの人数の多さにとても胸が痛くなりま
した。1人でも多くの子供たちが早く家族のもとに戻れたらと思います。





みなさんここまで読んでいただきありがとうございました！1週間という短い時間ではありましたが、沢山の人と出会い、学び、つながり、とても有意義な時間を過ごせたと思います。普通の大学生活では会うことができないような方々と会うことができ、貴重な経験をすることが出来たことに感謝の気持ちでいっぱいです。この1週間を通して、みなさんの平和のかけら「piece of peace」でいっぱいになったTシャツを長崎に持ち帰り、今度は長崎から見たこと学んだことを私たちなりに発信していければと思います！みなさんの平和への想いが実現しますように！

ナガサキユース代表団12期生

小林万葉（こばやしまよ）